

# 令和4年度 第2回市民と市長の座談会

## 会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和4年5月26日（木）午後6時00分～8時00分
開催場所	前原町西之台会館
参加者	男性 4名 女性 3名 計7名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が義務かどうかについて</li><li>・新型コロナウイルス感染症の無料検査について</li><li>・新型コロナウイルス感染防止対策等の規制緩和について</li><li>・「検討中」という行政表現について</li><li>・市内に設置されているベンチについて</li><li>・市内のPCR検査場について</li><li>・市内の20代及び30代の転出について</li><li>・子どもの医療費助成における所得制限について</li><li>・なそい坂の歩道について</li><li>・幅員の狭い道路の無電柱化について</li><li>・市の新入職員のNPO派遣研修について</li><li>・市職員の人数及び年齢構成について</li><li>・いのちの授業について</li><li>・街路灯撤去について</li><li>・教育相談所の建物について</li><li>・子どもの医療費の水増し請求について</li></ul>
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 1名

## 令和4年度第2回市民と市長の座談会

令和4年5月26日

### 1 開 会

#### ○司会者

皆さん、こんばんは。本日は、御参加いただきまして誠にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の廣田と申します。どうぞよろしく願いいたします。新型コロナウイルス感染症の防止対策としまして、マスク着用のまま、着座にて進行させていただきます。よろしく願いします。では、着座にて失礼します。まず初めに、配付物の確認をさせていただきたいと思います。まず、次第が1枚目でございます。続きまして、アンケートですね。こちら、最後に御提出いただきたいと思っております。続いて、こちら、令和4年度の「施政方針」ですね。こちら、冊子になったものになります。続いて、今度は令和4年度の「小金井市予算の概要」ということで、こちらは主な事業の紹介ということで、15ページから31ページまでを抜粋したものでございます。続いて、「第5次小金井市基本構想」、こちらのほうを抜粋したものでございます。今度、1枚、横長の「年代別ワクチン接種状況」ということで、こちら、5月22日現在のものになります。続いて、こちらはホームページの抜粋なんですけれども、「新型コロナワクチン3回目接種が効果的」といった形の、こちら、両面刷りの資料になります。あらかじめ皆様に個別に御用意しました資料は以上でございます。その他、後ろの受付のほうに置かせていただいているものとしては、「小金井市はこんなところですよ。」という、こちら、リーフレットですね。あとは、「坂と遊歩道マップ」ですね。あと、こちら、「子どもの思いを聞いていますか？」という、こちらのリーフレットですね。あとは、「協働事業提案制度」、こちら青色の両面刷りの資料になります。こちら、もし差し支えなければ、こちらのほうに置いてございますので、御入り用であればお声をかけていただければと思います。

それでは、開催に当たりまして、事務局のほうから御説明差し上げます。この座談会は毎年、年に4回程度、市民の皆様と市長とのフリートークということで開催しておりまして、本日は今年度第2回目の開催となります。

本日の進め方でございますけれども、まず初めに市政報告ということで、重要課題の進捗状況等につきまして、市長の西岡より簡単にご報告させていただきます。

その後、意見交換ということで、皆様から自由に御発言いただき、それに対して市長がお答えするという形で進めさせていただきます。今回は、新型コロナウイルス対策全般の御意見をまずお聞きしまして、その後、お配りしております第5次基本構想というものを今回策定しましたので、その中に6つの政策の柱というのがあります。その各分野ごとに一定の時間を設けながら、様々な御意見、御提案等をいただく形で進めていきたいと考えております。詳しくはまた後ほど御説明させていただきます。

では、本題に入ります前に、事務局より6点ほど御了承いただきたい点がございます。まず、1点目は、懇談中は議事録作成のため録音させていただいております。2点目は、懇談の様子を撮影した写真を、後ろからですが、撮ったものを、ホームページに掲載させていただきたいと思っております。3点目、懇談中に御発言される時は必ずマスクの着用を、すみませんが、お願いいたします。あと、必ず御発言される際、基本的にマイクをお渡ししますが、その都度、消毒とかをいたしますので、お時間かかるかもしれませんが、御了承ください。あと5点目、御発言の際は、大変恐れ入りますが、お名前をおっしゃっていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。最後、6点目、本日の終了時刻は午後8時となっております。午後7時50分ぐらいを目途に最後の質問とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、次第に従いまして、まず、市長の西岡より御挨拶と市政報告をさせていただきます。お願いいたします。

## 2 市長あいさつ（市政報告）

### ○西岡市長

皆様、こんばんは。西岡でございます。今日は大変お忙しい中、また様々な御予定があったことと思いますが、市民と市長の座談会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。この後は着座にてお話をさせていただきます。この市民と市長の座談会は、市長就任以来、市民の皆様方と市政に関する対話の場をぜひ設けさせていただきたいということで、この間、継続して開催してまいりました。年4回ほど開催させていただいております。コロナによって緊急事態宣言が発令されてしまったときなどは時期を変えたときも

ありましたけれども、今日は無事に開催ができて、大変よかったですと思っています。今日は18時30分ぐらいまで、すみません、お時間をいただきまして、冒頭、私のほうから市政報告、今の小金井市の現状など、最新の情報をお伝えさせていただき、残りの1時間半につきましては皆様方と、限られた時間ではありますが、様々なお声をお寄せいただきたいと思っております。皆様方のお声につきましては、市政運営の今後の参考にもさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、私のほうからコロナ対策についてお伝えさせていただきます。2年数か月、本当に長い期間になっておりますが、今を生きる私たち日本人が初めてパンデミックというものを経験しております。いまだにまだ乗り越えられておりません。しかしながら、この2年数か月、いろいろなことを経験し、学ばせていただきました。何としても皆様方と力を合わせてこの困難を乗り越えていけるように、引き続き継続して努力してまいりたいと思っております。コロナ感染症対策については、この間、色々なことに取り組んでまいりました。特にワクチン接種に小金井はかなり力を入れて取り組んでいるところです。いましばらくの間はコロナ感染症への対応を最優先とする計画が続くことを覚悟しつつ、市政運営に努力してまいります。東京都におきましては、5月22日までのリバウンド警戒期間が終了いたしまして、今は基本的な感染症対策徹底期間となっております。緊急事態宣言やまん防など、色々な制限がこの間、断続的に続いてまいりましたが、今は様々なことが緩和されて、感染症対策と社会経済活動の両立を図っていく時期となっております。小金井市もその状況の中で努力をしてまいりたいと思っております。累計の患者数につきましては、5月24日時点で、小金井市では9,878名となりました。特に第6波では、これまでにないような感染状況となりました。単純計算ではありますが、小金井市では、人口割りいたしますと、小金井市民の13人に1人が感染した、あるいは現在感染しているということになりますので、極めて身近なものとなっています。また、退院等の人数であります。現状9,559名ですから、この時点では、最新の時点、5月24日時点では約319名の方が療養中。オミクロンですので、基本的には軽症の方が多いので、大半の方が自宅療養となります。第6波のときは連日、約1,000名近い方々が療養中という状況が長く続きました。小金井では、自宅療養者の方や濃厚接触者の方々に、市独自の支援策として、生活支援物資などをお届けする事業を続けております。これも累計ですが、二千数百箱を、小金井市では市の担当職員が希望する方々に支援物資をお届けしました。パルスオキシメーターにつきましても、かなり買増しをしまして、多くの方々にパルスオキシ

メーターの貸出しもしました。また、買物代行ということで、自宅療養者の方々がどうしても必要な生活物資で、買いに行きたくても買いに行けないという状況がありましたので、小金井市では買物を代行する、お金をお預かりしましてお買物を代行し、後ほど精算すると、そういう市独自の取組も行わせていただきました。また、市独自の取組として、たくさんの方々がPCR検査や、また病院、あるいは病院に行つて陽性が判明して直ちに入院とか、いろんなケースがありました。そのときに、やはり感染拡大を防止するためには、陽性の可能性のある方々がどのように交通アクセス手段を確保するかというのは非常に重要です。公共交通機関は使えないので、また自分の足で行けない方もいらっしゃいます。したがって、小金井市では独自に、ホンダ自動車、本田技研が、陰圧車といって、ドライバー席と後部座席がセパレートで分かれています、感染している方が後ろに、後部座席に乗車しても、ドライバーに空気感染することがないという車を開発されたんです。私は、その情報がありましたので、いち早く、私自らホンダの本社にお電話しまして、この車をぜひお買いたいというお申出をしたら、何とホンダさんのほうから無償でこの最新の技術を駆使した車を小金井市に提供していただきまして、もう既に1年数か月、ずっと活用させていただいております。最大で、同じような車を確保しましたので、3台ぐらい運用されておりますが、今、少しずつ少しずつではありますけれども、利用台数は減ってはいます。しかし、まだ新規陽性者数が小金井市でも時に十数人、二十数人という状況でありますので、引き続き感染症対策にも全力で取り組んでまいりたいと考えております。

ワクチン接種の状況ですが、小金井市では、私の判断といたしまして、ワクチン接種は極めて重要な感染防止策と判断いたしまして、感染拡大を防止する唯一の切り札でもあるワクチン接種を安全かつ迅速に進めていくために、小金井市ではワクチン接種の実施を最優先事業と位置づけまして、小金井市の医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会、多くの関係機関、受託者と緊密に連携を取りまして、ワクチン接種に取り組んでまいりました。この間、多大な御協力をいただいております医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会、関係者の皆様方には特段厚く御礼を申し上げたいと思っております。小金井市は比較的ワクチン接種の接種率が高く、順調に進んでまいりました。現在、3回目の接種が終わった方が、直近の数字では全人口の60%を超えました。そして、12歳以上、全対象者の——これは18歳から60歳ですね。失礼しました。12歳以上。12歳以上の方々の全対象者の3回目接種は70%を超えたところでありまして、大変高い接種率……。もちろんワクチンはあくまでも希望で、任意です。任意でありますけれども、大変高い接種率になっております。

小金井市の場合、医師会の皆様方に診療所やクリニックで個別接種を行っていただいています。きめ細かく接種会場を、市内の何と50か所の病院、診療所がワクチン接種を担っていただきました。併せて、小金井では集団接種、大規模接種という集団接種会場も設けさせていただきまして、特に旧西友ビル、武蔵小金井駅の北口の旧西友ビルを、地権者の方に交渉いたしまして、駅前の利便性の高いところでワクチン接種を接種できる体制が構築できました。なので、小金井は個別接種と集団接種のハイブリッドですね。駅前の利便性の高いところで夜間接種、土曜日、日曜日、祝日も接種をする。利便性の高い接種会場をつくとともに、市内全域にきめ細かな接種会場を医師会の先生方の御協力で作ってきた、こういったところがあるかと思っております。現在、5歳から11歳の方々の接種や3回目の接種を行っておりますが、併せて、報道等にもありましたように、4回目の接種がいよいよ始まります。5月25日から全国的な期間としていまして、小金井市ではあしたから。明日から対象者の方々の、この明日からという方々は非常に早い段階で接種した方々で、昨年の12月に3回目の接種をした方で、非常に早い方々であります。その方々から断続的に、3回目接種から5か月経過した方、60歳以上、それから18歳から59歳までの基礎疾患のある方を対象に4回目の接種をスタートさせていただきます。小金井では明日からということになります。「市報こがねい」でワクチン接種については情報をかなりきめ細かくお伝えするとともに、60歳以上の対象者の方々には必ず接種券が届きます。18歳から59歳までの基礎疾患の方はコールセンターへお問い合わせください。接種券が届きますので、その接種券を御覧いただきたいと思っております。59歳以下の4回目の接種については、まだ国から方針が示されておられませんので、これからの話ということになります。まずは60歳以上、そして18歳から59歳の基礎疾患のある方を対象にワクチン接種を、ということになります。今日、小学生の方も出席していただいて、ありがとうございます。どうしてもちょっと難しい言葉が時々出てしまうかもしれませんが、すみませんね。許してください。もし分からないことがあったら、後で何でも質問してください。ありがとうございます。それでは、ワクチン接種については以上となります。引き続き、迅速かつ安全にワクチン接種が接種できる体制を継続させていただきたいと考えております。

また併せて、このコロナでは、市民生活や事業者の方々に実に様々な影響が及んでおります。もちろん、今まであった当たり前の日常が大きく変わってしまいました。会いたい人に会えない、会いたい友達に会えない、学校の授業も、学校の給食も、これまでとは違

った生活スタイルになってしまっています。市長といたしましても、いろんな制約をお願いしなければいけないこと、大変心苦しいところもあるし、辛い面もあるんですが、しかし、市民の皆様方の命と健康、地域の医療提供体制を守るために行っていることなので、どうか御理解をいただきたいと思います。そして、市民生活や事業者を守るための取組にも、いろんなことに取り組んでおりました。この間も、全市民の方々を対象に1人2,500円分の地域応援券をお届けさせていただいたり、総額2億6,000万円のプレミアム商品券を発行したり、キャッシュレス決済を浸透させていくことも目的としながらPay Payの30%ボーナス還元を実施したり、あるいは事業者の方々への給付金を減収15%以上の事業者の方々を対象に制度を開設しました。また、国や東京都からも実に様々な支援策が展開されてきておりますが、市長として意識していることは、国や東京都の支援の対象とはならず、しかも苦しい思いをしている方々がいらっしゃいます。事業者の方々でもいらっしゃいます。基礎的自治体で、身近な自治体でありますから、極力、国や東京都の支援がなかなか届いていない、届かない、本当は必要だけでも届いていない、そういった方々に何らかの支援の手が届いていくようにということを意識しながら、この間、色々な取組も行っていたところであります。これからも、命、市民の皆様方の暮らし、そういったものをお支えしていけるように引き続き努力をさせていただきたいと思っております。今日、6月の定例会に上程する議案を市議会に御送付させていただいて、今日ホームページに公表されておりますが、この6月2日から始まる小金井市議会の定例会におきましても、市民生活や事業者の皆様方をお支えする新たな補助制度、継続的な取組も含めて上程いたしましたので、市議会の皆様方からの様々な御意見をいただきながら、御審議いただきながら、市民の皆様方をお支えしていけるように、これからも様々な支援策に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

また、今日、6つの分野に分けて皆様方から要望等いただきますが、コロナはコロナとして、まず冒頭、コロナ対策ということで皆様方から御意見をいただきたいと思って、いろんな意見、要望をお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

この後、環境への取組について少しお伝えさせていただきます。今年の1月1日に初めて小金井市は、市長と教育長の連名で、小金井市気候非常事態宣言を発出しました。言うまでもなく、この地球温暖化、気候変動、気候危機、今までなかったような現象が今、地球規模で起きてしまっています。異常気象が完全に常態化している。私ども人類の存続に

も関わる非常に重要な問題、課題だと思っている、地球規模の課題であります。地球規模で見れば、小金井市、4キロ・4キロの小さな自治体かもしれませんが、しかし、ここに暮らす12万市民の皆様方とできることは、どんな小さなことでも、やれることはやっついこうという思いでありまして、省エネ、節電、自然・再生可能エネルギーの活用、新しい技術の導入、CO<sub>2</sub>の削減に向けて頑張っていきたいと思っています。教育長と連名で頑張っていて、これは全国でどうやら初めてのことらしいんですけども、市長と教育長連名の気候非常事態宣言を発出した私の思いというのは、この環境問題、特に地球温暖化問題は、一瞬にして改善できるものではもちろんありません。長い年月をかけて私たちは取り組んでいくところです。しかし、待たなしでもありますね。そういう意味では、やはり子どもたち、小金井市の将来世代の皆さんにも、環境問題を一緒に勉強していこう、取り組んでいこう。どんどん、どんどん、お父さんから子どもへ、子どもからそのまた子どもへ、繋いでいっていただきたい。親から子へ、またその子へとつないでいっていただきたいと思っております、環境教育にもこれまで以上に力を入れて取り組んでいきたいということで、市長と教育長で小金井市気候非常事態宣言を発出いたしました。具体的に何をやっているんだということではありますが、市としては、CO<sub>2</sub>削減の目標数値を定めておりますので、これに向かって努力していきます。例えば市役所や中間処理場は今、自然・再生可能エネルギー100%電力にもう切り替えました。それから、電気自動車や燃料電池を活用した水素自動車やプラグインハイブリッドなどの車に、基礎的自治体としては珍しいようでもありますけれども、多摩地域では初めてとお聞きしましたが、初めて市独自の補助制度を導入させていただきました。また、緑化の推進も大事なところでもありますので、敷地面積が200平米以上の建築行為に対して新たに緑化の指導を小金井市として行うという新しい取組も導入させていただきました。また、子どもたちにも、一緒に環境を考えるとということで、子ども環境ワークショップや森林教育なども参加させていただきました。第四小学校などでは、三楽の森や滄浪泉園に樹名板をつけるようなフィールドワークをするなどの新しい取組がスタートしておりまして、教育委員会ではハチドリプロジェクトと銘打って、子どもの環境教育に取り組んでまいりたいと思っております。

また、可燃ごみにつきましては長年の小金井市の課題でありましたが、おかげさまで13年間ずっと多摩地域の方々に、独自の焼却場を持たない小金井市は助けていただきました。感謝を申し上げます。日野市、国分寺市、小金井市、この3市で新しい焼却場を日野市内に建設させていただきました、本格稼働から3年目をおかげさまで迎えました。順調



に新しい焼却施設が稼働しております。「循環型都市『ごみゼロタウン小金井』～ごみを出さないライフスタイルへ～」ということで、ごみ非常事態宣言というのを13年間ずっと掲げ続けましたが、浅川、新しい焼却場が稼働しましたので、このごみ非常事態宣言の旗は変更しまして、もうなくなったということです。この間、小金井はごみ問題で非常に、大変、多摩地域の皆様方に御迷惑をおかけすることにもなりました。市民の皆様方といろんな減量政策に取り組んできた結果、小金井は非常にごみの減量に取り組んだ自治体で、環境省が発表している人口10万人から50万人未満の自治体では、この間、数年間ずっと、実は市民1人1日当たりのごみの排出量が一番少ない自治体で、実はトップが小金井市だったんですね。長らく続きました。最新の状況では、今どうやら小金井は3位になっているようでありますけれども、ここはもっともっと力を入れて取り組んでまいりたい。食品ロスをなくす取組や生ごみの投入量を、あるいは重さを減らすような取組、こういったことにも引き続き取り組んで、3Rの推進に取り組んでまいりたいと考えております。また、小金井では旧二枚橋の跡地に新しい不燃系の積替え・保管施設、小金井市のクリーンセンターを建設中です。ここでは粗大ごみの手解体処理などをやっていこうとして、かなり大きな施設になります。順調に今工事が進んでおりまして、8月1日から、小金井市野川クリーンセンターという名前に決まりました。小金井市野川クリーンセンターという名前で新しいごみ処理施設が誕生いたします。これは小金井市内です。旧二枚橋の跡地です。市民の皆様方も見学ができる施設となっておりますので、ぜひ御覧いただきたいと思っております。ちなみに、日野市内に稼働した新しい焼却施設、浅川清流環境組合も見学が可能となっておりますので、もし御興味がありましたら、ぜひ、自分たちのごみがどのような処理をされているのか、燃やすごみの処理過程を見学できますので、ぜひ御見学に行ってくださいと思います。

その他、3つ目は庁舎等複合施設建設についてです。令和2年6月から実施設計を進めてまいりました。新型コロナウイルス感染症による影響で市議会において複数の決議が可決された状況等を踏まえまして、建築確認申請はまだ行わず、現段階では建設工事に係る予算は提出しないことといたしました。今後は、市議会が可決されてきた決議や市民の皆様、市議会からの多様な御意見を踏まえまして、設計や建設の時期を見直すことも含めまして、市長と市議会が協議するための意見交換の場を設置いたしました。色々な議論を、意見交換をさせていただいております。市財政状況等も適切に捉えまして、引き続き庁舎等複合施設建設の実現に向けまして検討を行ってまいります。

また、4つ目といたしましては、新しい行財政改革の方針を今定めておりまして、小金井市の歴史的には5つ目の方針となります。行財政改革2025の策定を行っておりまして、現在パブリックコメントを行っております。極めて重要な方針です。ぜひ、ホームページ等で検索ができますので、ぜひいろいろな御意見をいただければと考えております。よろしくお願いたします。また、資料としてお配りしておりますが、基本構想も本年3月28日からスタートいたしました。資料として、「第5次小金井市基本構想」という資料があります。これは何かといいますと、小金井市の最上位計画、最も上位である、一番重要な計画でございまして、小金井市の10年後、令和12年には、こういうまちでありたいという将来像を、市民参加でいろんな議論をしまして検討を進めさせていただき、そして、策定委員会の方々の御議論をいただき、市議会でも御議論いただきまして、3月28日、小金井市議会第1回定例会で最終段階で議決をいただきました。お配りしているものが正式に確定された小金井市のいわゆるビジョン、将来像です。29の政策をここに掲げて、全部の計画としてまとめさせていただいておりまして、お配りしているものは基本構想というものになります。ぜひ御参照いただきたいと思います。この中に6つの政策の柱があります。環境と都市基盤、地域と経済、子どもと教育、文化と生涯学習、福祉と健康、行政運営、この6つの柱に区分けをさせていただきました。今までの基本構想、第4次までで、第4次は4つの柱だったんですが、市長といたしまして、6つの柱に細分化させていただきました。何が増えたかということ、子どもと教育というものが追加になりました。それから、行政運営というものが追加になりました。これから市役所改革は非常に重要ということでございます。ぜひ御参照いただきたいと思いますし、今日も色々な御意見をいただければと思っております。

もっとお伝えしたいことがたくさんあるんですけども、時間の関係で以上とさせていただきますが、まちづくりも、武蔵小金井駅の南口では、駅前の第2地区の再開発事業が完成しました。東小金井駅の北口では土地区画整理事業が今進展しておりまして、事業費ベースでも80%を超えてまいりました。これから武蔵小金井駅北口の新しいまちづくりが検討されておりまして、小金井市も進めてまいります。私は従来から、駅周辺のまちづくりは積極的に推進する立場です。駅周辺のまちづくり、利便性を高め、そして、小金井市の市民の方々が大切にしている水と緑、桜と公園、こういったすばらしい自然環境と調和された都市を目指してまいりたいと思っておりますし、また、子育て・子育て、教育環境の向上にもこれからも取り組んでまいります。

持続可能なまちとして小金井市が発展していくためには、子育て・子育て、教育環境の向上こそが私は最も重要だと思っています。そして、自治体の責務は何か。小金井市は一体何をするための行政なのか。これは答えは1つです。住民福祉の増進だと私は考えます。基本構想も、行財政改革も、市の職員の人材育成も、何のために私たちは存在しているのか。それは住民福祉の増進です。しかし、課題もあります。財源も限られています。こういった限られた財源や資源の中で、様々な創意工夫を行いながら、住民福祉の増進にしっかりと向かっていける持続可能な小金井市を目指して、引き続き努力を続けてまいりたいと考えています。まだまだお伝えしたいことが本当はいっぱいあるんですけども、今日は時間の関係で以上とさせていただきます。残された時間は皆様方との有意義な、貴重な意見交換の場とさせていただきたいと思っております。今日は様々なお声をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

### 3 懇 談

#### ○司会者

それでは、意見交換のほうに入らせていただきます。フリーテーマということではございますが、なるべく多くの方に発言いただきたいと思っておりますので、質問する際は、要点を絞っていただいて、簡潔にお話しいただきまして、二、三分程度にまとめて発言いただければありがたいかと思っております。詳しいこちら進め方なんですけれども、先ほど冒頭で、まず初めにコロナ対策全般ということでお聞きしたいと思っております。その後、先ほど第5次基本構想の6つの柱、政策の柱に沿って各分野ごとにお話を差し上げたかと思っておりますが、その分野に沿って御意見や御提案をいただく形で進めさせていただきたいと思っております。具体的には、こちら、お配りしました、第5次小金井市基本構想、こちらの14ページ以降に、6つの柱といたしますか、こちらのほうが記載されています。例えば14ページですね、環境と都市基盤、自然と都市が調和した人に優しいまちという形でございます。まずはそういった大元の分野で、次は15ページにあるような地域と経済といった形で、それぞれ分けて、おおむね1分野10分から15分程度と設定させていただき、進めさせていただければと思っています。できる限り多くの方に、幅広い分野から様々な御意見を伺えればと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○西岡市長

ちょっといいですか。その他というか、どんな発言でも結構ですから、最後はどの分野にも該当しないと思われるような課題、例えばロシアのウクライナ侵攻に関する考え方とか、例えばです。無理やり項目にはめられるわけでもないんですが、国際情勢とか、もつと、市政とは少し次元の違う話とか、御意見があるようでしたら、最後はその他というところでいろんな御意見をいただきますので、御安心していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○司会者

あらかじめ御準備されている御質問も多々あるかと思しますので、もし該当分野がありますならば、そういう形で御質問いただければ幸いかと存じます。それでは、進めてまいりたいと思います。まず、14ページにあります環境と都市基盤ということで、主に緑と水ですね。

○西岡市長

コロナは。

○司会者

失礼しました。最初はコロナ対策全般ということで御質問を賜りたいと思いますが、質問のある方はございますでしょうか。

○西岡市長

何でも、どんなことでも結構です。コロナ対策。

○市民A

本町〇丁目の〇〇です。ワクチンって、これ、絶対強制にはならないですね。伺えれば。

○西岡市長

はい。ワクチンは、国の法律でも、一応、12歳以上だったかな。5歳—11歳は、努力義務というものが、法律からはその概念はなくなっています。私たち成人を含めて、一

応努力義務ということにはなってはいませんが、あくまでもワクチンは任意で、希望する方だけが接種しております。なので、小金井市ももちろん強制しているものではないです。あくまでも任意です。しかし、重要ではあります。そして、正しい情報を市民の皆様方に私たちは周知する必要がありますので、特に医学的な見地が求められる分野でございますから、小金井市は小金井市の医師会の皆様方と連携しながら様々な情報をお伝えするように努めておりますし、また、厚生労働省ですね。厚生労働省の見解というものが一応オフィシャルな見解ということで、共有させていただいております。以上です。

○市民A

分かりました。

○市民B

前原町、〇〇と申します。よろしくお願ひします。ゴールデンウィーク中にちょっと喉が痛くなりまして、4、5日。これはまずいなということで、かかりつけ医に電話したところ、来てもらっちゃ困ると。すぐ上に耳鼻科があるから、そちらに行きなさい。で、早速予約して行ったら、検査は無料で受けられるんです。全然知らなかったものですから、市内にそういう箇所が何か所か、目的が何であれ、受けられるところがあるんでしょうか。

○西岡市長

これは時間軸があって、どんどん制度が変わってきているので、いつの。5月頃ですか、今年の。

○市民B

今年の。

○西岡市長

症状等がある場合は、その検査というものは、私の記憶では、恐らくはこれは行政検査なので費用はかからないんですが、無症状で検査に行く場合は、民間のほうでは有料でやっていた時期もありますが、東京都が途中から、これはいつぐらいだったでしょうか。東京都が、希望、無症状の方を対象に薬局等でのPCR検査をスタートしました。これは無

償です。これは無償になりました。なので、制度が非常にどんどん変わってきているということがあるので、ちょっと正確なことは申し上げられません。ただ、行政検査という考え方もありますし、東京都はある段階から希望する人、無症状の人も無料で検査が受けられるという新しい検査体制をスタートさせました。これがいつだったか。あれは3定のと きだったので、多分今年になってからですね。小金井市内でも3か所ぐらい検査ができる ところがあります。

○市民B

3か所だけですか。

○西岡市長

はい。あります。少し増えました。最初1か所だったんです。あと、東京農工大学も、 期間限定でしたけれども、3月頃に農工大学のウイルスの検査、ウイルスを専門としている 教授の方の関係する開発の関係で、研究の関係で、PCRの検査が無料でできる民間企 業の方がいらっしゃるということで、農工大は独自に、東京都の制度の中で、東京都の許 可をいただいて、農工大でも、たしか1か月間ぐらいの期間、3月18日までだったかな、 やっていただきました。このときは1日最大70人ぐらいの方が来られたそうです。

○市民B

じゃあ、日々と言ったらオーバーですけれども、毎月のように変わっているということ ですか、状況。状況というか、体制は。

○西岡市長

そうですね。変わってきましたね。今はもう無料でPCR検査は受けられるような状況 になりました。

○市民B

それが3か所ということですか。

○西岡市長

市内では。

○市民B

市内では。

○西岡市長

はい。都内では相当数が。

○市民B

例えば目的が旅行に行きたいからとか、田舎に帰りたいからとか……。

○西岡市長

ビジネスで海外に行きたいとか。

○市民B

という場合に念のために検査を受けたいというような目的でもいいわけですね。

○西岡市長

はい、そうですね。

○市民B

分かりました。

○司会者

ほかに、この後、順番で聞いて……。挙がって。

○市民C

前原町の〇〇と申します。今現在、社会活動とかも並行してやっていくフェーズにあるというお話だったと思うんですけども、具体的に市のほうで、例えばいろいろな制限を緩和していくというような考えはあるのでしょうか。例えば学校とか、夏に向けてマスク

とかの着用は止めようという話はテレビとかでも出ているとは思いますが、それら含めて、市のほうで何か具体的な指導というか、ガイドラインみたいなものを出していくというような予定とか考えはいかがでしょうか。

○西岡市長

基本的には厚生労働省の、国の方針、そして、教育の現場にあっては文部科学省並びに東京都教育委員会の方針をもちろん参照、参考とさせていただくのが、まずは基本原則になります。その意味で、最近の状況ですけれども、マスクについては体育の授業や、色々と国のほうから、やや緩和されていく方向性も示されておりますので、小金井市も国の方針等に沿って対応しています。もちろん熱中症や暑い時期については、やはり別な危険もありますから、そこはもう適切な判断が必要だと思っています。それから、マスクをつけられない方もいらっしゃいます。様々な事由によって。それはもちろん理解はさせていただきますし、子どもたちにもそういう理解をするように、教育的にも必要なことはお伝えさせていただきたいと思っています。コロナによって不当な差別や偏見はあってはならないと思っていますので、ワクチンを接種した、しないとか、マスクしたくてもできないとか、あるいはコロナになってしまった、あるいは濃厚接触になってしまった、いろんな理由が、いろんなことが発生しています。でも、みんなそれぞれ理由もあるし、コロナは誰が罹患しても、今となっては誰であっても、感染対策をしっかりやっていって感染してしまう可能性も十分あるわけですから、本当に不当な差別や偏見が無いようにしたいと思っています。学校のほうでは今、移動教室もスタートしています。既に5年生は行っているようです。なので、随分と緩和されてきています。小金井市の公共施設なども、従来とは変わって、基本的にはもうほとんど人数制限はなく、ただ手指消毒や検温やマスク、基本的な感染症対策は、これは継続させていただきます。しかし、大幅な人数制限とか時間制限とかは今なくなりました。なので、かなり変わってきていると思います。

○市民C

ありがとうございます。

○司会者

ほかにコロナ全般でお聞きしたい方はいらっしゃいますか。では、一旦ここで、一旦コ



ロナの関係は以上にさせていただきます。

#### ○市民D

これ、陳情には出させていただいたんですが、議会を聞いていても、あるいはこういう座談会で、先ほど市長さんが「検討中」という言葉を出しました。「検討中」という、ラテン語だかインドネシア語だか分かんないような、日本語に直訳すると何も訳がないという日本語になるんじゃないですか。だから、議会でも、それから公の発言でも、検討中とか、考えておりますとか、そういうことは、はっきりと禁止したほうがいいんじゃないですかね。コロナもそうですよ。検討中、検討中と言うけど、「検討中」って、日本語に直訳すると、何もやっていないということなんですね。このところ、どういうお考え。

#### ○西岡市長

難しい御質問ですが、「検討中」というのは確かに検討している段階ですから、目指しているものや課題となっていることをどう克服するか検討しているわけございまして、何もやっていないということではないと思いますが、目標、目的に向かって改善策を考えているということであれば、何もやっていないということにはならないと思うんです。もし本当に何もやっていないのであれば、それは何かを目的とする御意見等があつて、意見、提案、要望があつて、そのことについては何らかの理由でできないとか、何らかの理由で未実施だとか、あるいはもう既に実施したとか、そういうことはあると思いますけれども、検討している段階、考えている段階というのは、これは、よく行政用語は市民感覚から見れば分かりづらいとか曖昧だとか、またその言葉、何かごまかしているのではないかという御指摘、厳しい御意見に私たちはよくさらされます。耳にします。私はなるべくそういうことがないように、分かりやすい言葉で、それで現状を分かりやすくするようにお答えをしていますけれども、実際に現状は今検討段階にありますというふうにお答えせざるを得ないこともありまして、それは決して何もやっていないというわけではありません。もし何もやっていないのであれば、「検討中」という言葉は使わない。何もやっていないのであれば、それは何らかの理由でやらないので、できないことなので、それはできない、それはそれじゃないかと思います。考えている段階、検討している段階、目標に向かって今いろいろな選択肢を積み上げている、議論を積み上げている、研究している段階、これは千差万別ですが、いろんな段階があると思っています。

○市民D

コロナでも、確かに検討中というのは分かるんですよ。一生懸命みんな考えて、案を出し合っている。だけど、あまりにも検討中、検討中ということが多いんですよ。だから、検討中という言葉の代わりに、今この程度の段階でありますとか。

○西岡市長

なるほど。

○市民D

ね。ところが、それが何か、そういうことを答えると、やっぱり市政って、市民に知らせたら混乱を招くとか、そういうようなお考えで検討中ということで処理しようとするんでしょうが、それにしちゃあ、検討中とか、考えているところでありますとか、それがあまりにも多過ぎる。

○西岡市長

はい、分かりました。貴重な御意見と……。今こういう段階にありますとか、確かに、今ある状況を分かりやすくお伝えすることには努めてまいります。それは御指摘のとおりだと思います。ありがとうございます。

○司会者

次に進めさせていただければと思います。まず、14ページの環境と都市基盤ということで、主に緑とか水とか公園ですね。あと環境とかごみですね。あとは、駅前まちづくりだとか、そういったまちづくり全般、そういったところの分野になってくるかと思います。一応、参考までに、今お配りしています「予算の概要」というこちらのほうの冒頭、15ページから18ページぐらいまでにその分野の主な事業が載っていますので、参考させていただければと思います。それでは、この分野で御質問、御意見等がある方、よろしいでしょうか。

○市民D

良いですか。市長さん、ありがたいのは……ベンチを据えつけていただいて、どうもありがとうございます。各所でベンチがありますので、ちょっと間隔がないかなとは思いますが、こっちは運動も兼ねて歩きますので、ベンチの数はもうちょっと増やしたほうがいいかなと思っていますが、ちょうどベンチの横には大概桜の木が植わっているんですね。これも非常にいいですよ。初めのうち、桜の木は苗木なので、ベンチの横にこんな細いのを植えたって何の役にも立たないと思ったら、育ってきたんですよ。ベンチの横の木が非常に役に立ってきつつあるなど、それに大いに期待しております。

#### ○西岡市長

ありがとうございます。市長就任以来、ベンチの設置はずっと心がけてきた取組です。といいますのは、私の父、残念ながら他界してしまっていますが、脳出血と心不全の両方の疾病を伴って、5年間ずっと闘病生活で、最後は、最後の1年間ぐらいは自宅療養で、大変、私も自宅介護をさせていただいて、いろんな経験、勉強させていただきました。脳出血になってしまって、体左半分が全部麻痺してしまって、必死のリハビリで、本当にリハビリ一生懸命頑張って、やっと杖をついて家の近所だけを散歩できるようにはなりました。その父がやっぱり、自分はずっと健常者だったわけですけども、こうやって僕みたいに、連続して歩いて、途中で息切れして、何かにつかまって休みたい、少し腰を下ろしたい、こういう立場になってみて思うんですけども、やっぱり要所要所にベンチみたいなのがあると、そこを目標に頑張るし、ちょっと腰を下ろせるだけでも本当に助かるんだ、そういう父からのメッセージというか、声を聞いていましたので、駅周辺だけではなくて、可能な限り、市民の皆様の憩いの場としてのベンチの設置は心がけているところです。この間、遊歩道、駅周辺、バス停、公園、様々なところにベンチを設置してきました。また、ありがたいことに、最近、市民の方でベンチを寄贈したいという方のお申出があつて、これは非常にうれしいです。本当ありがたいことです。そういった市民の方々のお力もいただきながら、ベンチの設置をこれからも、交通安全対策上、問題にならないような場所に、有効な場所につけていきたいと。また、〇〇さん（市民D）からお話があったように、なかなかベンチは、屋根がないものですから、雨の日はなかなか使えなかったり、強い日差しのはときはなかなか課題もありますが、近くにちょっと木立があると日陰をつくってくれますので、どこにつくるかというのも実は意味のあるところで、いろいろ検討はしてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

○司会者

他に。少々お待ちいただけますか。すみません。

○市民E

お伺いしたいと思います。聞こえますか？

○西岡市長

大丈夫です。

○市民E

はい、ありがとうございます。2点ほどございます。1つは、先ほどのコロナに戻ってしまうんですが。

○西岡市長

どうぞ。

○市民E

12万の世帯数が出て、小金井、12万。12万4,000だと思うんですが、PCR検査は無料で3か所とおっしゃいました。3か所でよろしいですね。これは増やすことはできないのでしょうか。それが1つ。

もう一つは、この説明書の中の9番、市長にお伺いしたいんですが、人口動態なんですけれども、これを見てちょっとびっくりしてしまっただけですが、実は、小金井はとても住みやすいところではないかと思っております、東京からここまで来るのに約、本当に1時間以内で来られますし、新宿ですと30分でありながら、そういう動態、転入、転出でございますね。上の文章にも人口の動態を考えるという中で、単身世帯の増加が顕著だということ。それと20代から30代ぐらいまでの転入と転出というのがありますが、これはどうして、どういう形で。私、逆だと思っていたんですね。もう少し高齢の方が転入されて、この地を選ばれて住まわれる方が多いと思っていたんですけど、20代から30代の山ですね。ちょっとカラーじゃないので分からないんですが、左側が転入ということではよろしいですか？で、右側が転出ということではよろしいですか？そうすると、20代から

30代に変化がないと思うんですよ、転入、転出されて。これは入ってきて出ちゃっているんですね。要するに、小金井に対して、例えば何か、学校が多いとか、何で転入する人が少ない、ここで、要するに、とどまらないのかなというのがちょっと疑問なんですね。若いこの世代の人たち、若い世代にもかかわらず、同じような人数が出ていくわけですね。それはどういう理由だとお考えでしょうか。よろしくお願いします。

#### ○西岡市長

ありがとうございます。東京都の事業でありますPCR検査は、薬局さんを中心に事業に御協力していただいております、主にチェーン店が中心となっているんですね。木下グループさんとか聞いています。複数の薬局、チェーン店の方々が協力していただいております。小金井の場合は3か所にとどまっていますが、これは都の事業なので、市の意向だけで増やせないところもあるんですけれども、市長としては、ぜひ多くの薬局さんに御協力していただきたいなと思っておりますが、現状、PCRの検査キットなどが途中ちょっと不足したときもあるようでして、なかなか機能しなかったときもあります。一斉に行かれますからね。しかし、市長としては、もう少し協力していただける事業所さんが増えていただけたらなと思います。先ほどもお話ししました農工大学さんは非常に御協力していただきました。先日も学長や幹部の方々とお会いすることがありました。私は農工大学の経営協議会メンバーに入っているものですから、頻繁にお会いするんですが、大変私も感謝申し上げます。多くの市民の方が利用させていただきました。大学のほうでつくっていただきましたので。なので、そういう答弁は難しいところがありますが、市としては、市長としてはもうちょっと増やしていただきたいと思っておりますが、都の事業なものですから、そこら辺は御理解いただければと思っております。

それから、人口動態です。まず、総じて小金井市は人口の微増状態が続いております。特に令和2年度は武蔵小金井駅の南口の再開発事業の竣工、完成などがあって、東京都内62市区町村ありますね、23区も含めて。小金井市、初めて人口増加率が1位になりました。これは始まって以来のことですね。少々驚きました。令和3年度の全体の東京都内における小金井市の人口増加数は、令和2年度から比べますと若干落ちました。令和4年4月1日時点の人口が12万4,539人になりまして、前年、令和3年4月1日と比較すると461人、1年間で461人出たんですね。その前の1年間はもうちょっと。転入者が増えているのかな。転入者が増えたんですね。ちなみに、令和2年度は人口増加率1位

と申し上げましたが、令和3年度は東京都の統計では、東京都内全体では9位です。増加人数で。多摩地域では5位。そして、人口増加率ですね。増減率では、都内全体で5位、多摩地域では4位でありまして、依然として、今、全国的には人口減少、人口が減っている自治体が多いです。そして、少子高齢化が顕著になっていますが、小金井市の場合は微増状態が継続しているという状況です。これは主にファミリー世帯の転入超過があると考えています。先日も議会に5歳刻みの1年間の人口動態を出したんですが、全体的にはばらつきがありました。特別際立ったところはないんですが、5歳から15歳ぐらいまでは人口増えていました。1年間ですね。1年間なので、ちょっと断片的なデータです。高齢世帯でも増えている年代もありました。そして、転入超過であるというところですが、ここに書いてあるとおりなんですけれども、これまでの小金井市の人口動態というのは、ここに書いておりますように、全体的には転入、転出の人数が多い20代、30代の方の転入と転出が課題となっておりまして、20代の人たちの入りと出が多いのは、やっぱり学生が多いまちです、小金井市は。大学生の方が卒業されて、どこかに。地方から小金井市にいられて、近隣の大学に通われているという方々が一定数います。毎年毎年、この22歳前後の方々というのは卒業されて他市に行かれて、そしてまた18歳ぐらいの方々が入ってくるというのが毎年毎年繰り返されていて、じゃあ、この対象がどれぐらいいらっしゃるのかというのは十分分析はできておりませんが、かなり、数千人単位で入れ替わっているのではないかと私としては推測するところかなと思っています。あと、子どもたちの数が今増えてきたのも事実です。ゼロ歳から4歳のところは減っているんですけど、これはそもそも人口が減っています。小金井市は毎年、大体1,000人ぐらいの赤ちゃんが市内で誕生していました。毎年、私が市長になって。ここ最近では、コロナもあるのかもしれませんが、920人ぐらいです。1年間に誕生された人の数が920。以前は1,000人を超えていました。これはもう日本の今の少子化の波を、小金井もやはり同様な傾向の中にあると。しかし、ファミリー世帯の転入が多いので、最近では小金井市の市内の小学校は児童数が増えておりまして、教室が足りないという状況がありまして、3つの今現象が起きています。1つは人口の子どもたちの微増。そして、35人学級対象の学年が増えてきている。それから、学童保育を利用する方々の全入維持というのを市長として堅持してございます。一定の要件を満たす方は希望者全員入所というのをずっと守り続けております。これは、小金井市は共働き世帯の方が多いので、何とでもこれは守っていきたいと思っていますが、利用者が年々増えておりまして、今や想定を超えています。空き教室を、

余裕教室をお借りして、一小、東小、前原小、緑小及び南小において、大規模化で運営をさせていただいております。学校との協力をいただいております。そういった関係もありまして、今、子どもたちのための教室というのが大きな課題になっていまして、人口増、それから35人学級、それから学童保育の大規模化、こういった影響を受けています。子どもたちの年少人口は令和8年をピークに考えています、小金井市は。令和8年をピークに小金井市の年少人口はピークとなって、そこから横ばいから減少に行く。小金井市全体の人口は令和13年をピークに横ばいからやはり減少していくというふうに一応最新の人口統計では調査して、打ち出したところであります。そういった人口統計を基に、こういった小金井市の資料を出させていただいております。市長としてはですね、やはり生産年齢人口を維持していきたいと思っています。まちの活力ですから。持続可能なまちであるためには、やはり若い世代、ファミリー世帯の方々から支持していただきたい、そういうまちでありたいと。長い目で見れば、やっぱり小金井……僕も小金井で育ちましたので、小金井のまちに愛着もあるし、誇りもあるし、小金井のまちがもちろん大好きで、そして今首長をさせていただいておりますが、やっぱり親から子へ、またその子へと、このまちへの愛着もやっぱり引き継いでいただけるようにしたいし、小金井の子どもたちもやっぱりこのまちにずっと住みたいと思われのような市政運営をしていきたいと思っています。

#### ○市民E

ありがとうございました。私がちょっと聞いたかったのは、小金井でそういうふうにな…全国、日本の動態そのものが低くなっているのは分かるじゃないですか。それは小金井も同じだと思うんです。波は、減少していくということは。ただ、3棟のタワーマンションが建つという計画は事前にしていて、どのぐらいの人数が入ってくるかということはもう事前に分かるわけですね。あれだけの人数が入ってくるわけですから、当然に、中身は見ないと分からない。年齢層がどうやって入ってくるかというのは分からない。建って見ないと分からない。でも、あれだけのものを野村不動産が売り出して、人口が増えていくことに関しては想像がつくわけなんですけど、私がちょっと疑問に思うのは、いいまちだと思っていたんですけど、私は。要するに、学生が来るのは分かるんですよね。10代というのは分かるんです。20代から24歳の学生だ。それに関しては、おっしゃったように、学生の世代。ところが、30とか、30、そこら辺ですよ。それと関係ない、働きながらの人たち、若い人たちが入ってきて、同じようにまた出ていっちゃうわけですよ。何

でかなというのをちょっと市長にお伺いしたいなど。これは長くなっちゃうから。

○西岡市長

分かりました。

○市民E

それがすごく私、不思議だったんですよね。定住するのではないかなど。私にとってはすごくいいまちなので、ここに来られたときに、ちょうどお子さんが生まれる年齢ですよね。緑に囲まれて、小金井でおうち買われていて、いいなと思われるのではなくて、出ていっちゃうわけですね。ということは何なんでしょうねというのが、すごくこれを見て思いました。よろしくお願いします。

○西岡市長

なぜ小金井市から転出するのかと、転出した人たちに理由を聞いて分析をしたことは残念ながらありません。でも、それは、まちのことを考えるのであれば、市長としても聞いてみたいところだなと思います。ただ、よく言われるのは、中央線ではよく西に移動していくとは言われていますね。例えば、お勤めの方が多いので、若い頃、単身の頃は例えば杉並区や吉祥寺辺りの便利なところに住んで、結婚を機に少し西に移動して、そして、子どもができる少し西に移動してと、西に移動していくという説を唱えていた人もいます。お家賃もありますしね。小金井も決してお家賃が安いわけではありませんので。あともう一つ、コロナの関係で、今や職住隣接を求めない人が、職住隣接していなくてもいいという、テレワーク、在宅ワーク、在宅勤務ですね。週何回か会社に行けばいいという方が本当に現れましたね、コロナで。そうすると、住宅への価値観といたしましうか、これはコロナで相当変わったと思います。郊外志向がますます増えてきているから、したがって、小金井市を選ぶ人もいれば、小金井市に住んでいる人がさらに郊外に行くという現象もあるのではないかと思います。現状まだ小金井市は転入超過です。ありがたいことです。小金井市のまちが良いと言って、こちらに越してきていただける方には本当に感謝を申し上げますし、そういう方々の御期待にももちろん沿えるように努力していきたいと思っています。特に子育て・子育て、教育環境の市民サービス、住民福祉、こういった分野にもっと取組をしたいなと思っています。特に小金井市は、近隣自治体が比較的、財政的に



非常に充実した自治体が多いんです、従来から。僕も市議会議員、都議会議員を経験しているんですが、隣の市はこういうことをやっているけど、小金井市は何でできないのということがいっぱいあったんです。例えば医療費助成がそうですね。義務教育。小金井市はマル乳をやっていますから、未就学児の方々、実質医療費無料です。しかし、近隣市は小学生全員無料、中学生も無料、こういう自治体があります。市長になって、小学校1年生から3年生までは実質無料に、自己負担200円はありますけれども、初めて所得制限を撤廃しました。昨年10月には4年生から6年生までを対象とさせていただいて、実質無料。来年度の10月からは、中学1年生から3年生、中3までを実質無料にする計画で今準備をしております。例えばですけれども、こういった制度なんかも、今までできなかったことですね。今まで出来なかったことが出来るようになってきているので、こういった分野にも力を入れて、私としては、他にもいっぱいあります。いろんな課題、まだまだ子育て・子育て、教育環境で言うと、小金井市は市民の方々の満足度が低いです、はっきり言って。小金井市はまだ低い。低いです。なので、市長としては相当頑張らなきゃ、これからは頑張らなきゃいけないんですが、努力していきたいと思っています。

○市民F

すみません。今の話に非常に近い観点ですけれども。

○西岡市長

どうぞ。

○市民F

ちょうど今、子育て世代に当たるので。前原町の〇〇と申します。子育て世代が何で転出してしまうかに関してなんですけれども、よく、賃貸で最初の子どもは産まれて、ちょっと郊外に住もうかな。例えば23区に住んでいた方がちょっと緑が多いところに行く。小金井市いいなと思っても、今、例えば家族4人で住もうとして一軒家を買おうとすると、8,000万、9,000万という値段がするんですね。そうなると、普通のサラリーマンにはとても出せない値段なんですね。にもかかわらず、例えば先ほど市長がおっしゃった医療費助成もまだ所得制限がありますし、正直、隣り合っている府中市と比較して見劣りします。うちも、その点に関しては、引っ越して一番しくじったと思ったところです。も

ともと23区に住んでいたのですが、23区では中学3年生の子どもも無料でしたし、府中市も武蔵野市もみんな無料ということは知っていたので、まさか無料でない市町村があると思っていませんでした。非常に多大な負担がありましたね。そこはもう小金井市に引っ越して一番失敗した点だと思いますね。ですが、先ほど申しましたように、それだけ不動産が高いということは、収入がなければいけないわけですね。500万の収入ではとても買えません。当然、夫婦共働きで、1,000万、2,000万の収入がなければ到底、子どもの教育費と併せて負担して、かつ老後の資金をためていくということを考えれば、金銭的に非常に難しい。なので、小金井市を気に入っても、そこに定住できないんですね。特に最近、ここ5年ぐらいは不動産の価格も非常に上がっていて、駅前のマンションも、4人家族で住もうと思う広さを求めれば、1億円ぐらいします。1億円をぽんと出せるサラリーマン、そういないと思います。それが私は一つの大きな理由で、私も知り合いからよく聞く理由の一番は高過ぎるということですね。だから、家賃を支払って住んでいたときは気に入っても、結局のところ、物件を探してみたら、どうやっても手が出ない。じゃあ西に行こう、じゃあ八王子に行こう、結局そうになってしまうわけですね。でも、彼らは子どももいらっしやいますし、生産人口として、できれば手放すべき人たちじゃないんです。なので、例えばそこに対して不動産の値段を下げるということは民間企業だけではできないと思いますけれども、例えば放課後に塾をやるとか、もちろん色々な所得制限を全て撤廃して、民間のいわゆる保育園もそうですし、あと放課後の児童施設に関しても、民間の習い事とか、そういったものもばんばん取り入れて、例えば塾なんかは1年間まともに行こうとすると100万円近くかかります。でも、それを学校でというか、小金井市でサポートしてくれる、半分でもサポートしてくれるとなれば、多少不動産が高かろうと、じゃあ住んでみようかなという世帯は必ず現れると思うんですね。そこに対しての子育てしやすさの経済的な面でのサポートが小金井市は正直少な過ぎます。それが定住しない一番の理由だと思いますね。だから、選ばれないということですね。

#### ○西岡市長

お答えいたします。大変厳しいお声をいただきました。率直に受け止めさせていただきたいと思っておりますし、努力するとは言いようがありません。財源が限られている中で今必死に頑張っているところです。一軒家を買おうと8,000万、9,000万で、マンションだと1億というお話がありましたが、私は不動産市場は非常に詳しいんですけれども、相

当グレードの良いものではないかと思えます。

○市民F

そうでもない。

○西岡市長

そういう物件もありますけど、そういう物件だけではありませんので、中古市場もありますしね。もちろん新築で、相当グレードの高いものなのではないかなと私は思います。言い訳してもしょうがないので、小金井市に来て失敗したというお声をいただいたのは、市長としては本当に辛いお言葉であります。率直にこれは受け止めさせていただいて、引き続き小金井市の子育て環境の向上に努力いたします。

ただ、一点だけ一応申し上げさせていただくと。多摩には26市というまちがあって、私が市長に就任したときに、児童福祉費ってあるんですね。子どもにかけている予算です。それが市民1人当たり、小金井市は5万5,000円でした。多摩地域でワーストワン、一番低かったんです。子どもにかけている予算、教育費は除きます。児童福祉費ですから、保育園とか学童保育とか、あるいは子育て支援、様々な対策です。子家センターとか。小金井市は1人当たりの児童福祉費が5万5,000円でワーストワン。私、そこから市長に就任させていただいて、スタートしました。平成26年、27年はワーストワンでした。どのまちも、今や競い合っているというか、各自治体同士で、良い意味で競争しています。良い意味で競争社会になっています。それは良いことだと思います。みんなで、どうやったら自分たちのまちが支持されるのか、信頼されるのか、選ばれるのか、これはもう当然のことだと思います。まだまだ渦中ではありますが、一応、令和3年、令和2年、令和2年の決算から市民1人当たりの児童福祉費の金額が11万円になりまして、初めて三多摩、26市でトップになりました。小金井市が1位になりました。そして、令和3年度の予算も、予算上ではありますけれども、児童福祉費は11万円を超えておりまして、多摩26市では初めて1位になりました。でも、現状で良しとは決して私も思っておりません。市民の皆様方からの子育て・子育て、教育環境に関するアンケートや御意見を聞けば、満足度は極めて低いと思っておりますし、医療費助成に関していえば、今は小学校6年生までは実質無償化になって、来年度、中学3年生までが無償になります。高校生については今、東京都といろんな調整をさせていただいております。小池都知事のほうからも。高校生の

医療費助成、所得制限は最初あるんですけども、これまでにない取組がスタートするということは、基礎的自治体の長としては注視しております。こういったことのみならず、市民の皆様方の厳しい生活状況を基礎的自治体としてもお支えできるように、引き続き努力はさせていただきたいと思っています。民間の塾の支援ということもありましたが、小金井市も福祉的な側面で、様々な制度がありますので、所得によって利用できる、できないという制度もあるんですけども、御指摘はしっかり受け止めさせていただいて、もっとも小金井市の政策が充実できるように引き続き努力はしてまいりたいと思っています。

#### ○司会者

では今、お子さん、子どもに関連するお話も出てきましたので、次の分野に移らせていただきまして、ちょっとお時間も限られているので、15ページ、16ページ、地域と経済、子どもと教育という分野、2つ併せてできればと思います。地域と経済は、災害関係であるとか、また産業振興ですね。そういった分野になってくるかと思えますし、子どもと教育につきましては、子育て・子育て環境の充実であったり、あと学校教育ですね。お子さんも今日はいらっしゃっていますので、そういった分野で御提案、御意見を承りたいと思いますが、何かございますでしょうか。そうしたら。

#### ○市民G

お隣の国・韓国では、大学卒業生が98%なんです。だから、それ見た時、あれっ、日本は軽く追い抜かれちゃうじゃないと思ったんですが、ところが、私は高校時代に数学で統計学の基礎を習ったんです。教授が変だというのがあって、頭の良いのは少ない、ばかも少ない、標準の、一番大きいのは中間層だと。だから、日本だって、別に98%も大学に行かなければ日本は伸びない、そんなことないですよ。頭のいいやつは少なくてもいい。割合の少ないほうにちゃんと分配されれば、それでいいと。ところが、何だ。それが1つ。

それから、あと、テレビ見ていたら、親子4人で生活して、それでローンで家庭の経営をやっていた。ところが、もう寝る時は、みんなで抱き合って暖を取って寝る。徹底的に儉約をしたところ、ローンを短期に完済しちゃった。それで、短期に完済しちゃって、そのうちは自分のものになった。だから、これで、何だ、できるんじゃないかと。じゃあ、

もう一軒家を建てようと、そういうのがテレビに出ていた。だから、お金というのは使い方なんでね。それからまた、終戦直後に僕は育ったわけだけど、大根の葉っぱと目刺しと、それから麦飯、この3種類だけ食べていけば十分栄養は足りるんだと。しかし、これは毎日やるわけじゃないから、適当に他のものを混ぜたって、それは当然個人の自由ですからあれなんだけど、そういうふう食べるものだって儉約して家を買っちゃったわけでしょう。ローン完済して自分のものに。だから、もう一軒やろうじゃないかって頑張っているわけですからね。だから、その家の大蔵大臣や総理大臣がしっかりしていれば我慢できるんじゃないかと思うんですよね。

それから、人口だって、これは市長さん御存じと思うけど、ある自治体で議員が市の職員に質問したんですよ。正規の社員があまりにも雇われる数が少ない。それで、その職員の中でてきぱきと対応する職員がいて、それで、何だ。それで、あの、何だ。ええと。

○西岡市長

時間が……。

○市民G

ごめんなさい。てきぱきと言って。それで、総理府統計局の発表だと、正規の社員になりたいというのは活動世代の人の10%か20%なんですってね。それで、あと非正規、つまり日雇とか非正規の希望者が80%から90%いるというんですね。これ、市長さん御覧になったことありますか、この統計。総理府の統計局の発表らしいです。それを職員さんが議員さんに答えたところ、それは信じられないと。本当なのかいと普通の人は思うけど、現実に数字はそういうふうになっているんだから、だから、結局、儉約というのはできるわけであって、儉約ができないから家が建たない、家を持ってない、そんな理屈はないですよ、と思います。

○西岡市長

すみません。御意見として承らせていただきたいと思います。

○市民G

いいです、いいです。

○西岡市長

すみませんね。もう少し深掘りをしないと理解ができなかった部分の御発言もありまして、ちょっと時間の関係もありますので、御意見として承らせていただきます。

○市民G

ええ、いいです。はい。で、あてこの……。

○司会者

一旦ちょっと他の方に御意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○市民H

ちょっといいですか。

○司会者

大丈夫です。

○市民I

前原町の○○です。なそい坂を通るときに、歩道があるけど、終わりのところは歩道が一気に狭くなって、危ないから、歩道を造ってほしいです。

○西岡市長

なるほど。ありがとうございます。

○市民H

第2庁舎の向こうのほうです。

○西岡市長

なるほど。ありがとうございます。今ちょうど「坂と遊歩道マップ」をお配りしていますので、大体なそい坂も入っておると。第2庁舎の横の坂、歩道が途中までしかなくて、

ちょっと狭くなって、危ないから歩道を造ってほしいと。御意見ありがとうございます。小金井市は、なそい坂だけではなくて、歩道が狭くて危ない場所、他にもいくつかあって、市民の方や議会の方々からもいろんな提言をいただいています。なそい坂、あそこは一方通行、そして、自転車で下りていくでしょう、あそこね。だから、怖いですよ、確かに。それは僕も感じています。なので、今はあそこを通行する人には、車も自転車も歩行者も、皆さんとにかく気をつけてもらうということが、まずは、今は先決です。将来あそこに歩道をつけられるかどうか、これは隣にある民間の方から土地を買うかお借りしないといけないかなと思います。そういうことができるかどうかですね。今すぐは難しいんですけども、どうしたら安全対策を施すことができるか、通行できるか、そのことは考えていきたいと思います。ありがとうございました。貴重な御意見をいただきました。小金井には、こういったたくさん交通危険箇所、ちょっと気をつけなければいけない場所、また課題の多い場所、歩道が狭くて、通学路、通学の中でとても問題になっている場所があります。市としては、どういう場所が問題になっているかは把握はしているんですけども、どうしても民間の土地を借りるとか拡張しなければいけない事情があって、すぐにはできない場所があって、大変申し訳ないと思っています。子どもたちの、みんなの安全を守っていきけるように、これからも頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

#### ○市民H

今の話で、道幅が狭いというのは、私も車を運転したり歩くこともあって感じるんですけども、例えば電柱を地中に埋めるじゃないですけど、電柱がなくなることで通行しやすいとか、そういう可能性はあると思っていて、そういう傾向というか、考えを進めていただけるといいかなと。

#### ○西岡市長

ありがとうございます。無電柱化という行政用語ですが、いわゆる電線の地中化です。電線類の地中化、行政用語ですね。電線を地下に埋めて、一つの配管の中に電話線とか電気とか光ファイバーとか入れて、そして、その結果、電柱をなくしちゃう。今、この無電柱化、この事業を進めています。小金井でも、連雀通りですとか、市役所の前とか、小金井街道ですとか、3・4・11号線ですとか、東八道路ですとか、かなり増えてきました。国も東京都も小金井市も、この電線類の地中化、無電柱化を推進しています。私も市長に

なってから小金井市独自の無電柱化推進計画というのを策定しました。先般、3年たったので改定しました。この中には、8つの路線をまず優先的にやりましょうというふうに決めました。そのうちの2つ、最優先路線として選定しまして、今、設計が終わって、これから具体的な埋設工事などが始まります。その場所というのはムサコー番街なので、北口の旧西友やドン・キホーテさんがありますが、その裏側の道路ですね。あそこを電線なくします。それから、もう一つは連雀通りと図書館、第一小学校がある丁字路がありますね。あそこ、正確には3・4・12号線というんですけれども、ここも電線類を地中化しようということで、優先整備路線にしました。それ以外に6つの路線を一応決めていまして、北口の行幸通り、農工大通り、東小金井駅の太陽寺のほうに向かっていく富士見通りですね。それから農工大通り、それから蛇の目通りですね。それから、あともう一つは、すみません、ちょっと忘れまして。すみません、出てこないですね。一応6つの路線を決めていまして、なそい坂は残念ながら入っていないんですけれども、段階的に無電柱化の道路を進めていきます。東京都も進めています。しかし、電線類の地中化をするには、ある程度の道幅、ある程度の歩道空間と地中の条件が、ある程度の条件がありまして、どこでも出来るわけではないということなんです。課題があるんですね。どうしても技術的な課題があるんです。今申し上げた路線は技術的には克服できる場所だと思っています。それによって少しでも、これは歩道も良く、景観も良くなります。防災のときでも電柱が倒れなくなります。いろんな利点がありますので、電線類の地中化、無電柱化は、それなりの財源はかかるんですけれども、今、少し技術が促進されて低コスト化されてきていまして、一時期は非常にお高い工事だったんですけれども、今、大分下がってきましたので、市としてもこれは最大限進めていきたいと思っております。

○市民H

ありがとうございます。

○西岡市長

後ろの方、先に挙げている。

○市民J

ちょっとピンぼけな質問かもしれないですが、いいですか。2年ほど前に市長とのこの



会に参加させていただいたときに、新しい、若手の職員をNPOに積極的に派遣して、成長を促すというか、していると、そういう教育をしているということがあったんですけど、その成果と、それから、今年もまた15人以上の新しい職員を採ったそうですけれども、採用計画というか、今職員の数が足りないのか、ちょっと時々、暇なので市役所をのぞくんですけれども、そんなに、皆さんそうおっしゃるんですけれども、忙しそうに見えないんですが、対象とする方が何名ぐらいいて、職員の構造というんですか、年齢構造というんですか、それがどうなっていて、どういう計画で採用されているのか、あるいは、ある程度予算を、人件費というのを決めてやっていらっしゃるのか、その辺ちょっと、分かりにくい質問かもしれないですけれども、よろしくお願いします。

○西岡市長

ありがとうございます。まず、NPO派遣ですね。これは入所2～3年目ぐらいの若手の職員を対象に、対象を受け入れてくださるNPOが今たしか10団体ぐらいあります。そこに毎年毎年、複数名派遣をして、NPOですから、市民ファクターですね。市民協働であったり、地域活動であったり、市政を担っていただいている……。

○市民J

例えば具体的にはどういうところがあるんですか。

○西岡市長

例えばですね、福祉のNPOとか、これはいっぱいありますね。それから、福祉系が多いですね。それから、黄金井倶楽部さんという地域のスポーツクラブですね。

○市民J

ポールウォーキングのやつですね。

○西岡市長

あとやっぱり、NPO法人の皆様方は子育て支援ですね。子育て関係。子育て、福祉、あと障害福祉、こういった団体が多いです。この皆様方は、市政のパートナーとして市の事業なども担っていただいている皆様方ですので、若い職員にとっては勉強になります。

非常に勉強になります。民間というのは市民団体、市民ファクターの現状を学ぶ上で非常に有益で、生の現場も見ることができます。これを毎年毎年、そうですね、30人ぐらいの職員が行って、しかし、残念ながら、この2年間はコロナで、コロナの感染拡大が深刻になりまして、できませんでした。なので、一刻も早くこれを復活したいなと思っています。成果としては、やはりNPO派遣することによって現場を知ることができる、そして、NPOの方々がどんな創意工夫をして、いろんな事業活動しているのかという実態を知ることができる、こういったことがあろうかと思います。

それから、採用計画については、小金井市の場合は歴史的に、実は革新市政の時代がありました、小金井市は。昭和40年代から60年代ですね。今からちょうど50年ぐらい前ですか。ものすごく、たくさん職員さんが短期間で採用されていってしまったみたいなんです。小金井市、人口12万人で、平均的に見れば、市の人口とその市の職員数というのは大体傾向分かるわけですけども、小金井でいうと、大体昔の試算、私の試算ですけども、大体600人から700人ぐらいが恐らくは適正な職員だと、私が市議会にいた頃ですから、ちょっと昔になりますが、十数年前はそんなふうに試算しましたね。しかし、小金井市役所は最大1,200名ぐらいの職員数になりました。自治体ですから、自治体なので、民間企業とは違いますので、途中で大量に退職をもらうということは市役所の場合なかなかできないわけですね。大きな課題になりました。最終的には人件費比率というのが非常に高くなって、予算に占める人件費の割合がすごく高くなって、本当に普通の自治体では考えられないような人件費比率の高さになってしまったんですね。

#### ○市民J

全国1位でしたね。

#### ○西岡市長

これが平成の確か、平成元年とかぐらいまでずっと続いて、ずっと課題になっていましたね。なので、これは私の前の前の前の市長さんの時代ですけども、職員数削減というのが平成の9年ぐらいから政策として行われて、退職不補充といって、退職した人の穴埋めをしないということを長くやって、職員数を極端に、かなり減らしてきました。今、小金井市の正規職員数というのは670人ぐらいですね。かなり適正化されてきていて、決して多過ぎるということはないと思いますし、また少な過ぎるということもなく、他の自

治体との均衡でいうと、平均的に近づきつつあるのかなと思っています。

○市民 J

これだけ機械化が進んでね、平均的といえば平均的なんでしょうけど、本当に必要かどうかというのはね、よく考えていただかないと、私はもう年金生活者なので税金は払っていませんけれども、若い人たちが非常にかわいそうだと思います。

○西岡市長

はい。確かに。

○市民 J

大体、20人も30人も、そんなにNPOに派遣しても成り立つということは、それは余剰人員なんじゃないですか。

○西岡市長

これが、NPOに派遣するといっても、長くて5日、短くて3日間ぐらい。

○市民 J

そうなんですか。

○西岡市長

ええ。すみません。まだ短期間なんですね。ですから、業務に支障は来しません。それから、人数の適正化をどこまで見るかなんですが、ここはこれから自治体のDX・デジタル・トランスフォーメーションとか、ICT技術の導入とかAIとかRPAとか、いろんなものがこれから活用されてくれば、業務の効率化にはつながると思います。一方で、新しい行政課題もどんどん増えてきていまして、やらなければいけない仕事はどんどん増えているんですね、正直申し上げて。

○市民 J

これだけ目標をつくっていらっしゃいますからね。

○西岡市長

はい、はい。なので、どうかじ取りをするかというのは本当に市長の大事な仕事だと思っておりますが、気持ちの上では、もちろん職員がたくさんいたほうが、それはいろんなことに挑戦もできます、単純に考えて。しかし、限られた財源、それから、小金井市は人件費比率がとて高くて苦勞した歴史がありますから、そこは適正な規模に維持しながら効率的にやる。それから、外部人材も投入するということを大事にしていきたいなと思います。以上です。あと、元職員課にいたので、うちの広報秘書課長。何か補足があれば、採用計画のほう。今年は18人の新規職員の方々に来ていただきました。

○市民J

そうらしいですね。

○西岡市長

やっぱり若い職員の方も入ってきてくれないと、新陳代謝できませんから。あと中途採用枠もあります。

○市民J

辞めていくのはどれぐらいなんですか。

○司会者

普通退職と言われる人で10人から20人ぐらい大体毎年辞められているかなということですね。定年退職の方はそんなに今はいないんですけども、大体それぐらいの退職者は毎年発生するという形です。

○市民J

じゃあ、増えていきますね。

○司会者

基本的には退職された方の分を採用するという形のバランスでやってはいるんですけど

ども、そのあたりは、そうですね、そういう形ですね。

○市民 J

1人に例えば何役もやらすとか、そういう、企業ですとね。縦割りなんでしょうけれども、いろんな工夫をされれば、もっと少ない人数で効率のいい仕事もできるんじゃないですかね。

○西岡市長

ありがとうございます。また、今お話ししているのは正規職員に絞った話をしています。一方で、小金井市には、これは小金井市だけじゃありませんが、その昔、非常勤職員という、今、会計年度任用職員と名称変わっていますが、この方々が300人以上です。多様な働き方ということで、正規職員と会計年度任用職員……。

○市民 J

それはパートさんとは違うんですか、いわゆる。

○西岡市長

昔はパートさんといった人たちも、いわゆる短期間ですね。短期間で、期間限定、1か月とか、二、三週間とか、1人とか。そういった方々も以前から来ていましたけど、今も時折、臨時職員という形で採用する場合があります。

○市民 J

それは採用ですか。派遣社員ですか。

○西岡市長

派遣を使うことはないですね。基本的にはないですね。ただ、あと一方で、小金井市は民間活力の導入も進めていまして、例えば窓口業務、市役所の窓口業務は今、民間企業に委託しています。民間の方々のノウハウを生かしていただいて、丁寧、迅速な対応をしていただき、市の職員もそういった方々と働くことによって学ばせていただいているということで、要はアウトソーシングといいましょうか、こういったものも進めていく。

○司会者

続きまして、先に、ちょっとだけすみません。皆様、もうお時間も迫ってきているので、何でも構いませんので。

○西岡市長

そうですね。

○司会者

はい。よろしくお願いします。

○市民K

先ほど私、名前を言わなかったので、すみません。本町の〇〇と申します。よろしくお願いいたします。16番の「心豊かにのびのびと子どもが育つまち」というところの「子どもと教育」に関してですが、ぜひ要望として市長のほうにお願いしたいと思います。以前、本当少しなんですけれども。市の、年間1回、毎年秋ぐらいに市民まつりをやっていたと思います。その中の実行委員をやっていたことがあるので、内容は分かっております。仕組みも分かっております。その市民まつりのところで、市が主催をしまして、低学年の子ども向けの命の授業をやっていたかと思っております。その理由としてはですね、長く実は病院勤務しておりました。その中で、子どもを担当している間に、病院とは何かということ考えたときに、病を持った患者さんが来るだけではなく、若い子どもたちに命の大切さを医療現場から伝えるということに気がつき、それを企画し、運営を長くしていました。病院の近隣の小・中学校のところに医師と看護師を派遣して、毎年4回ほど、保健授業の一環として、その中に組み込んでいただいて、小学校のその授業に、もちろん先生方と色々コミュニケーションしながらですが、医者・看護師が低学年用にガイドを作って、命の授業を何回も繰り返していった経験があります。病院を辞めて、定年退職した後で、同じようなことが小金井でできないかというのをずっと思っていました。やはり医者を、医師とか専門職を、そういうところにお呼びするのはちょっと難しいかなと思っていたんですが、ある先生に声かけたときに、喜んで、そういう命を守る、小金井市の子どもたちの命を守ることであれば無償で協力をするよと言ってくれる先生がいたとい

うこともありまして、できましたら、市民まつり、これは市民のためのまつりだと思います。いろんな方がいろんなもの、催物をしてありますが、その中に市主催として1時間枠ぐらいで命の授業を、市主催ですね。よくテレビとかでされていると思うんですが、NPOとかいろんなところで命の授業というのをやっているんですね、実は。ただ、市として、主催として、低学年の子どもたちに、医療従事者をお呼びして、命の大切さ、これは学校関係ではないんですね。学校の先生とか、そういうのは授業でされていると思うんですが、これはやはり現場、医療の中で働いている、生死を目の当たりにしながら治療している医師が担当して、子どもたち、低学年の子ども、命の授業をずっとしてきた、その成果を知っておりますので、ぜひ小金井でもそれをお願いしたいと思いますし、今、定年退職してから、ある学童支援員として、学校の皆さん、学童クラブですね、学童支援員としてさせていただいています。それを提案して、そこではやることになりました。親子会の中に先生をお呼びして、そういうことができるように、上のほうに許可を取ることができました。でも、そこは一部の子どもたちだけなんですね。そこへ通っている子どもたちだけです。できましたら小金井市全域の子どもたち、低学年の子どもたち、そういう子どもたちも含めて、そういう人たちがそこで命の大切さを学ぶ機会をぜひ与えてあげていただきたいと思っています。やはり今の取組ですね、一番何が大切かといいますと、やっぱり、今の子どもたちって核家族ですし、死ぬとか生まれるとかという経験がなかなかない訳ですね。大家族ですと、おじいちゃまとか。だから、やはりテレビゲームの中で、バーチャルの世界で何かする。そうではなくて、やはり命ってこれだけ大切なものなんだよという、命のことを、人間の生命のことを勉強した医師が医療現場から子どもたちに、低学年ですね、与えてという機会をぜひ市の中で。それは新しい、市民まつりじゃなくても結構ですし、市が主催でそういうことをしているところというのは日本の中ではまだ聞いたことがないんですが、どこかやっていたらあれなんですけど。よろしくをお願いします。

#### ○西岡市長

まず、とても大切な御提言、御提案をいただきまして、ありがとうございます。子どもたちに命の大切さ、命とは。奥の深いテーマであると同時に、とても大切なテーマです。もちろん御家族の中でもいろんな、保護者の方が子どもたちに伝えていただいていることもあるでしょうし、それぞれの価値観に基づいて。一方で、社会全体で子どもたちに伝えたいこともあるし、小金井市もあるし、市長といたしましても、今いただいた御提案は教

育長とちょっと相談させていただきたいと思います。また、現場の医師、既に御協力していただけるよという御了解をいただいているということですが、医療現場からの話ということであれば、小金井市医師会の先生方の存在もありますし、その先生も恐らく医師会には入っていらっしゃるのかなと思われまじけれども、こういう取組ってやっぱり、やる以上に継続も大事で。

○市民K

そうですね。継続的に行われていくといいなど。

○西岡市長

単発というよりはですね。子どもたちの教育カリキュラムの中に、今も色々、小金井市教育委員会が考えた「命の尊厳」とか、いろいろあると思うんですが、そういう通例の事業ではなくて、医療現場で学んだ人の話をぜひ聞いてほしいという御提案ですので、そのことは大熊教育長とまた直接お話をさせていただきますので、考えさせていただければと思います。よろしくをお願いします。

○市民K

ありがとうございました。

○司会者

それでは、あとお二方ぐらいで。まだ発言されていない方もいらっしゃるのでは、一番後ろの方。

○市民L

すみません。貫井南町在住の〇〇と申します。この席ではということ、他の場面ということ、市長さんのほうから数年前の座談会で言われておりますが、今回そちらに渡しました街路灯撤去の件なんですが、そちらの方、相続人がまだ決まっていなくて、亡くなられた後に、6人いらっしゃるのでは。今月の11日、東電さんと、責任者の方と、前そこに住人でいらっしゃった方と、その知人の方と話をしまして、電柱撤去に関しては東電さんのほうで、6人の中の1人、対象を決めていただければ工事ができますので、



っていう話はしてありまして、街路灯に関しては、交通対策課のほうに全く第三者の方、関係ない方から、外していいですよということで、今回24日に外されているんですが、そういうことをやってもいいんでしょうかということを一つと、あと、今月の2日、交通対策課の課長さんが替わられていますから、それでちょっとお尋ねに上がったんですけど、街路灯に関しては全く問題がないと聞いていますと。何が問題ないんですかと言ったら、係長さんがお見えになりまして、永遠に平行線であると。だから、課長さんに対して、対応しなくていいですよ。自立柱の費用、工事費用、私に持ってくださいとおっしゃったんです。だから、自立柱の費用を持ってくださいと言われましたので、立ち会っていた住民の方たちが、何でそんな話になるんですかということなので、手短かに言って、もう対応しないとおっしゃっているので、市長さんのほうで何とか対応していただけますように今日お願いに上がりました。よろしくをお願いします。

○西岡市長

事前に街路灯撤去工事のお知らせという資料を担当から頂きました。詳細については市役所の担当職員から、現状、私も今どういう状況にあるのか、担当課からヒアリングを、聞きますので、状況を。その状況を聞いた上で、どういう対応が今求められて、できるのか、できないのか、その点についてはちょっと考えさせていただきたいと。

○市民L

申し訳ありません。それで、交通対策課の職員の方が、市長さんにどういう話をしているのかなというのが非常に疑問なんです。かなりずれがありますので、市長さん御存知ないことがかなりあると思いますので、そこら辺、しっかり、交通対策課長に話をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○西岡市長

担当課とは、適切に情報共有はさせていただいております。ただ、案件が非常に多いので、小金井市内で。

○市民L

はい。すみません。課がいっぱいまたがっていますのでね。

○西岡市長

街路灯に関係する事案というのは非常にたくさんの事案があるものですから、タイムリーに全てを私が把握できるかというのはなかなか難しい点もあります。ありますけれども、課題となっていることや問題となっていることについては担当とは極力速やかに情報共有は取るようにしていますので。

○市民L

はい。対応しないとおっしゃっていますから、対応していただきたいので、よろしくお願いします。

○西岡市長

そういった点も含めて、担当と考えさせていただきます。

○市民L

はいはい。よろしく願いいたします。

○司会者

最後に。

○市民M

時間が押しているところ、手短に2点。1つは、シャトーの2階にある教育相談所、これはもしかして教育委員会の管轄かもしれないんですが、そこに以前2回ほど用事があって相談に行ったことがあったんですけども、懸念しているのは、建物が非常に古くてですね、そちらの相談員の先生いわく、不登校のお子さんとか、どんな悩みがあるか、教育に関して悩みがある人はいつでも来てくださいとおっしゃっていたんですが、建物が非常にもろくてですね、一応、雨の日に伺ったのですけれども、1階のドアを開けたら、階段が滝のような雨が降ったんですね。階段が上れないぐらいすごいですね。私はもう天井すらないのかと思ったぐらい、まさか3階まで川を上ると思わないので、それほど危険な建物に、いくら悩み事があるとはいえ、子どもが自由に行くとは到底思えず、仮に息子が

すぐ「行ってくる」と言ったら、私は、あまりに危険過ぎるので、止めます。それほど危ない建物に年間670万円もの家賃を支払われていると聞いて、これはちょっと、そもそも見合わないですし、危険過ぎます。特に子どもであれば、通うにはとても、1人では判断して対応する力がないので、教育相談所の早急な見直し。家賃も含めですけど、家賃が下がろうと、何であろうが、あんな場所は本当に危険なので、早急に安全な別の場所を探していただきたいというのが1つ目の要望です。

もう一つが先ほどの医療費、子どもの医療費に関してなんですけれども、これは全てのもちろん病院ではないんですが、息子がかかった一部の病院で、医療費が実質200円しか払わないということを逆手に取ったのか、水増し請求している医療機関があります。そういうところは明細書を出しません。医療明細書を出しません。欲しいと言っても、色々ごまかして、発行できないとか何とか言われて出さないんですね。息子は夫の会社の保険に入っていますので、会社の健康保険からいくら医療費を使ったかというのが定期的に送られてくるんですね。そういうのをチェックしてみますと、例えば歯医者さんで1回フッ素を塗っただけなのに2万円取られていたということなんですよね。それは会社の健康保険組合からしっかりともらっていて、我が家は実質200円の負担で済んでいるんですけども、そういったことが多々ありまして、じゃあ、この前行ったところは駄目だから、別のところに行こうというのと、またその歯医者さんでも同じようなことが起きているんですね。印象としては、歯医者さんが多いと思います。こういうことは本当に市税の無駄使いになりますし、もちろん健康保険組合としても無駄になりますし、たまたまそういった明細が送られてくる健康保険組合に加入していたから分かったんですけども、多くの方が分からないだろうなど。200円で済むからいいやと言って通っていることが多いと思います。でも、フッ素を塗るだけで、大人だったら500円とか600円で済むのに、3割負担で。子どもが行くと2万円かかるというのは、ちょっと通常ではあり得ないと思うんです。だから、その点を、ちょっと小金井医師会なのか歯科医師会なのか分かりませんけれども、もちろんそういうのを入れられるのを嫌がる先生もいると思いますが、これはちょっと税金の無駄使いになるので、何かしら対策を取っていただきたいと思います。以上です。

○西岡市長

ありがとうございました。まず、教育相談所の件です。所管はもちろん小金井市教育委

員会でありますけれども、市民と市長の座談会で受けた場合に、教育関係の課題はもちろん市民の皆様方からいろいろなお声をいただきますから、お答えできるものはお答えしますし、持ち帰るものは持ち帰りますし、大熊教育長と相談するもの、担当と相談するものもあります。まず、教育相談所がとても建物が古くて、もう一日でも非常に危ないということについては、大変申し訳ないと思っております。建物が非常に老朽化している施設であるということは課題として、私としても受け止めているところです。教育支援センターという新しい構想を今、教育委員会では、まとめています。現在、もくせい教室という制度もあるんですが、今までずっとあの建物の中でやっていた事業を今、学芸大学のほうに試行的に行かせてございまして、今年の4月、令和4年からは本格実施になりまして、学芸大学の施設をお借りさせていただいて行っています。しかし、教育相談所という機能としては現状の建物で、ということになっていて、建物がもう老朽化しているということについては大きな課題になっておりまして、新しい小金井市教育支援センター構想というものをつくりまして、場所も含めて、今、検討段階に入りました。従いまして、今日の段階では、いつからどの建物に移設しますということはまだ答弁できないんですけれども、まずは教育相談所、教育支援センターという名称に改めています。相談機能を充実させるための取組、それからソフト面、それから場所についても適切な場所を見いだしていくことで、今その検討がやっと始まったところです。もう少し今の場所は使わせていただくことにはなるんですけれども、必要な工事などはしっかり行いながら、もちろん危険、安全とか、つまり、相談事業ができない、支障がある、そんな段階にもしあるならば、今の施設はもちろん利用することはできません。しかし、今御指摘のような、雨が降って、だいぶ危険を感じて、お子様を通わせることができなかつたという御意見も、それは私のほうから教育委員会にお伝えしますので、そういったことが借りてる間に起きてしまつてはいけないので、現に起きてしまつているんですけれども、そこは改善できるように努めていきます。

それから、医療費の関係です。この点については、ちょっと私、子育て支援課……。もしよろしければ、〇〇様（市民M）ですよね、そういう事案があるということで、ちょっと調査を。私たちとしては、まずは把握をさせていただいて、調査をする必要があるかどうかを含めてお話を伺いたないので、もしよろしければ、今日せつかくお会いさせていただきましたので、ここで分かりましたということではなくて。もしよろしければ、ぜひ子育て支援課の職員からお電話させていただいて、もうちょっと詳細な、ちょっと事業者さん

の名前とかはなかなかこの場では言いにくいかと思うので。

○市民M

そうですね。

○西岡市長

ここは、このやり取りは全部議事録で残っちゃいますので、そこはちょっとお話を伺わせていただきたいと思いますので、御連絡させていただいてよろしいですか。

○市民M

はい。よろしくお願いします。

○西岡市長

ありがとうございます。

#### 4 閉 会

○司会者

ありがとうございます。まだまだ御意見伺いたいところではあるんですけど、ちょっとお時間になってしまいましたので、ここで終了させていただきたいと思います。すみません。最後に市長より一言申し上げまして、終了とさせていただきます。

○西岡市長

今、時刻がちょうど8時になりまして、皆様方の御協力に感謝申し上げたいと思います。また、今日はたくさんの多様な御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。今日、特にですね、子育て・子育ち、教育環境のことや福祉面でのことや、市の市役所の職員や業務の在り方など、本当に多面にわたる御意見をいただきまして、今後の市政運営の参考とさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。まずはですね、たくさんの課題が今目の前にあるんですが、このコロナ禍をですね、早く乗り越えていけるように、そして、コロナによって生まれた変化、マイナス面は改善していくと。また一

方で、コロナによって、良い変化もあるんですね。例えば急速にICT技術が高まったりとか、子どもたちにも1人1台のパソコンが導入されたり、コロナがなければ5年10年かかったことが、わずか半年で出来たんですけれども、そういう側面、ピンチをチャンスに切り替えていくという、この姿勢を大切にしながら引き続き努力させていただきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

○司会者

以上をもちまして、第2回の市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。アンケートにつきましては、退出の際、ぜひ御提出のほうをお願いいたします。どうもありがとうございました。